

## メイド・イン・イタリー デザイン： 2021 年は復興の年、2022 年は危機警鐘の年

イタリア家具工業連盟のデータによると、家具と照明のマクロシステムは 2019 年に 11%成長し、260 億ユーロの売上高を生み出すとされています。フェルトリン会長は「エネルギー価格の高騰と戦争が成長を阻害しているが、我々の企業は健全である。リーダーシップを再確認し、新しい市場を切り開く機会だ。」と述べています。

2020 年の世界的な経済危機の後、2021 年は木製家具メーカーにとって、パンデミックによるギャップの回復において重要な年となりました。イタリア家具工業連盟のスタディセンターが処理した予備データでは、木製家具部門を構成する様々な部門に多少の差こそあれ、実際に回復していることが示されています。特に家具と照明のマクロシステムにはポジティブな傾向が見られ、2021 年は 2019 年比 11%増で締め、総売上高は 260 億ユーロ以上 (2019 年は 235 億ユーロだった)、貿易収支は 93 億ユーロと、2020 年比で 19.7%増、2019 年比で 9.3%の増加となりました。

### 【家具・照明マクロシステム】

イタリア市場での販売に関して、家具・照明のマクロシステムは、2019 年に 12.8%増、2020 年に 23.7%の増加を記録しました。この数字は、税制優遇措置の効果や、パンデミック時にイタリア人の生活の中で家が中心的な役割を担っていたことに裏付けられています。ただし、2021 年末からの原材料やエネルギーの高騰を受けて定価が上昇しているため(この影響は 2022 年にも及ぶと思われる)、その変化を評価するには、2021 年の企業予算を待つ必要です。

### 【好成長の輸出】

輸出面では、家具・照明のマクロシステム(これだけで L-A サプライチェーン全体の海外売上のはほぼ 4 分の 3 を占める)は、2020 年に 20.9%増の好成長を遂げ、9.4%増の変化で 2019 年

## FederlegnoArredo

Ufficio stampa e comunicazione  
Foro Buonaparte, 65 • 20121 Milano  
Italy • Tel +39.02.80604.1  
Fax +39.02.80604.392  
press@federlegnoarredo.it  
[www.federlegnoarredo.it](http://www.federlegnoarredo.it)

のレベルを上回りました。主要な市場はすべて好調で、2020年から2021年にかけて明確に成長しました。

2021年1月から11月までの期間、輸出先の各国の動向を分析すると、フランス(2020年比25.1%増、2019年比15.5%増、2021年の生産高20億ユーロ)がトップであることが確認されました。状況がまだ正常化していないにもかかわらず、メイド・イン・イタリアの輸出規模や成長率から、依然として有望な商圏であり、コントラクトにおいても世界の主要拠点の1つとなっています。

2位は米国(2020年比42.8%増、2019年比33.7%増、2021年の生産高13億5600万ユーロ)で、特に寝室、布張り家具、マットレス、インテリア小物、浴室家具・アクセサリ、照明の分野がダイナミックな動きをしています。続いてドイツは、リビングエリアとラジエーター・インテリア暖房器具の分野でプラスの輸出傾向を記録(2020年比15.3%増、2019年比13.3%増)、イギリス(2020年比25.5%増、2019年比2.6%減)、スイス(2020年比18%増、2019年比9.7%増)、バスタブとシャワーエンクロージャー、布張り家具、寝室、フローリングの分野で著しい成長を見せた中国(2020年比28.9%増、2019年比11.8%増)の順です。ロシアは2020年比14.9%増から2019年比5.9%減でした。

#### 【国内外で好調の家具とバスルーム家具部門】

最もダイナミックなシステムのうち、家具(2019年比15.6%増)とバスルーム家具(2019年比10.1%増)は、どちらも、イタリアと国外の売上がともにプラス傾向である。家具と同様に、キッチン(2019年比12.2%増)も2020年に回復し、国内市場の好条件の恩恵を他よりも受け、パンデミック流行前の水準を上回りました。

#### 【非住宅部門(オフィス、商業家具、サービス業)の成長は緩やか】

非住宅部門(オフィス、商業家具、サービス業)も部分的に回復していますが、正常な状態に戻るにはまだ時間がかかりそうです。2021年、コントラクト業界と最も密接に関連するこの部門は、住宅部門よりも緩やかになっています。2020年と比較したオフィス系のトレンドは上昇(回

転率 20.0%増)を見せましたが、パンデミック前の 2019 年に記録した値(4%減)はまだ回復していません。輸出が依然として低迷しているため、照明部門は 2019 年の水準を下回っていますが、イタリア市場の販売は好調で、パンデミック前の水準(2.8%増)に戻っています。

#### 【2021 年度の見通し】

2021 年の成長高には物価の変動も寄与しており、来年の企業のバランスシートでその影響度がわかるので侮れません。原材料やエネルギーコストの上昇に対処するため、企業は値上げに踏み切らざるを得ませんでした。しばしば利幅の縮小を伴い、また、程度の差こそあれ、エネルギーの自給自足に頼らざるを得なかったのです。

#### 【エネルギー供給問題】

エネルギー供給問題は解決にはほど遠く、ロシア・ウクライナ危機によって明らかに悪化しており、2022 年には深刻な影響を及ぼし、今後も及ぼすでしょう。紛争は企業の供給難を増大させ、原材料やエネルギー価格をさらに押し上げ、最終製品にまで及んで、わが国の製品、ひいては企業の競争力を低下させることになるでしょう。ウクライナ、ロシア、ベラルーシからは、世界中からイタリアに届く総量約 900 万立方メートルのうち、約 5.3%にあたる 46 万 8948 立方メートル(2021 年 1-11 月データ)の丸太、パネル、製材を輸入しています。ロシアが 2.5%、ウクライナが 2.3%、ベラルーシが 0.5%です。

#### 【ロシアの比重】

木材家具サプライチェーンの輸出に占めるロシアの比重は、2019 年には 4 億 3500 万ユーロだったものが 4 億 1000 万ユーロ(2021 年 11 月更新データ)となり、約 6%の減少を記録しています。一方、家具・照明部門のマクロシステムは約 3 億 4 千万ユーロで、2019 年には 3 億 6100 万ユーロとなり、こちらも約 6%の減少を記録しています。家具のマクロシステムの輸出「ランキング」では、中国、スペイン、ベルギーに次ぎ、ロシアは 9 位です。

### 【イタリア家具工業連盟 クラウディオ・フェルトリン会長のコメント】

「2021 年にはパンデミックの最悪期を脱したと思われたイタリアの企業は、イタリア経済の回復期を完全に妨げ、不況シナリオをもたらす危険性もある紛争に、大きな不安と懸念をもって将来を見据えることになりました。状況がいかに深刻か、生産が贅沢品になりつつあり、すべての企業家の悲鳴を聞くだけで、その余裕がある企業が少なくなっていることを十分理解できる。私たちの業界でも、すでにしばらく電源を切っているところもあります。木材の加工は、エネルギーコストの負担が大きく、最終製品の価格にも影響し、原料の調達にも影響を与える。連盟としては、最も影響を受ける企業がこの困難な局面に立ち向かうために必要なサポートや情報を得られるよう、メンバーとの話し合いや機関への働きかけを行っています。

2021 年は、特に家具や住宅関連システムが驚くほど好調に幕を閉じましたが、地政学的な不安の度合いや、進んでは止まる国からの建築に関わるボーナスが混乱と減速を生み、残念ながらその兆候がすでに現れています。このような状況にもかかわらず、私たちは 6 月の見本市で世界にその姿を見せる準備ができています。これは私たちに勇気と自信を与え、私たちの分野が健全な基盤を持っていることを示すシグナルなのです。国際的な枠組みが急激に変化した今日、輸出と貿易の正常化が望まれますが、見本市への参加はその重要な要素であります。

企業は、柔軟性と弾力性に富んでいることを、すでにパンデミックの間に示しました。いま、彼らは、ロシアとその直接の影響下にある市場に代わる新たな市場に向けて、短期間で軌道修正を行い、再びそれを証明することを求められています。市場のポジショニングは、ヒット・アンド・ランのアプローチには決して反応しないことを考えると、これは簡単な作業ではありません。当連盟は既にアクションを起こしており、戦争の影響で売上高が全てまたは大部分が損なわれ、市場の多様化で支援を必要とする企業のために、関連するフォーラムで代弁者を務めています。

6月のサローネは、企業の方々にとって、世界で最も重要なデザイン見本市の可能性を最大限に引き出すことができる機会だと確信しています。この部門が世界におけるメイド・イン・イタリアを象徴する経済的で象徴的な価値を守ることが基本になります。」

### 【木工家具】

木工家具のサプライチェーン全体を見ると、2年前の430億ユーロに対して、2021年の生産高が2019年に比べて14.1%、つまり490億ユーロ以上と2倍の伸びを示しているように、この分野は回復しています。それだけでなく、サプライチェーンの輸出も好調で、2020年比20.6%増、2019年比7.3%増で180億ユーロを超え、2019年の170億ユーロをわずかですが上回り、部門全体の37%以上を占める輸出の回復を確固たるものにしていきます。一方、イタリア国内市場では、2019年比18.5%増、2020年比28.9%増の成長となっています。

### 【家具と照明】

2020年、家具と照明のマクロシステムは、家が果たす中心的な役割のおかげで、特にパンデミックの開始後も落ち込みが最も小さく、2021年(売上高160億ユーロ)には、前年比25.3%増と、パンデミック前の最後の年である**2019年比15.6%増**に相当し、最も成長するシステムであることに変わりありません。国内市場での販売(2020年比27%増、**2019年比16.6%増**)や輸出(2020年比23.6%増、**2019年比14.4%増**)も2019年と比較して好調に推移しています。主な市場では、フランス(2020年比26.1%増、2019年比21.4%増、**生産高2021年12億4300万ユーロ**)、米国(2020年比44.8%増、**2019年比40.7%増**)、ドイツ(2020年比12.2%増、**2019年比14%増**)、中国(2020年比27%増、**2019年比10.2%増**)および英国(2020年比34.6%増、**2019年比6.1%増**)などで、貿易収支も増加しました(2019年比15.6%増)。

### 【キッチン】

2020年に記録した、特に国内市場での売上減少による急激な落ち込みの後、2021年のキッチン部門は、最初の速報値によると成長に戻り(2020年比24%増)、金額では**2019年のレベル(12.2%増)**を回復し、上回る見込みです。今回は、コロナ前の前回(**2019年比15.4%増**)と比べても、特に**イタリア国内の販売**の貢献度が高い(2020年比29.2%増)ですが、輸出は緩

やかです(2020年比+14.9%、2019年比6.4%増)。主要な市場では、フランス(2020年比24.2%増、2019年比16.7%増)アメリカ(2020年比2.4%増、2019年比16.8%減)スイス(2020年比19%増、2019年比12.2%増)イギリス(2020年比39.8%増、2019年比4%増)とドイツ(2020年比17.9%増、2019年比29.5%増)などです。ロシア市場と中国市場は減少し、2019年比ではそれぞれ4.8%減、14.8%減を記録、貿易収支は2019年比(+7.2増)でプラスになっています。

#### 【バスルーム】

バスルーム設備は、住宅設備との強い関連性により、2020年には成長し(速報値:前年比21%増)、金額ではパンデミック前の水準を回復する(10.1%増)という明るい傾向にあります。これは、特にイタリア市場での販売(2020年比金額で28.4%増、2019年比12.7%増に相当)のおかげです。輸出も好調ですが、成長率は低く(2020年比13%増、2019年比7.2%増)、総売上高の半分以下に留まっています。主要な市場はドイツ(2020年比14.9%増、2019年比12.7%増)、フランス(2020年比18.8%増、2019年比10.3%増)、イギリスはマイナスですが(2020年比4%減、2019年比23.1%減)輸出額では3位を維持しています。次いで、スイス(2020年比16.4%増、2019年比13.9%増)、米国(2020年比36.9%増、2019年比22.4%増)と続きます。貿易収支は、2019年比で1%拡大しました。

#### 【オフィス】

2020年は好調(生産高20%増)ですが、パンデミック前に記録した値はまだ回復していません(2021/2019年比4%減)。輸出(2019年比11%減、2020年比6%増)に比べ、国内市場(2020年比32.5%増、2019年比2%増)の回復がより顕著です。パンデミックが続き、その結果、多くの活動が遠隔地で行われるようになったことは、オフィスシステムにはマイナス要因となり、世界規模で市場規模が全般的に縮小していることにつながっています。ワークスペースとオフィスの再定義、そしてワークステーションの交互使用とスマートワークによるハイブリッドモードの出現は、固定ワークステーションの減少につながり、結果として家庭用エルゴノミクス・チェアの消費を増加させることになりました。

### 【照明】

輸出シェアが 75%を超える照明部門は、海外市場の動きと強く連動する傾向があり、2020 年に大きく落ち込んだ後、2021 年には再び成長(2020 年比 17%増)しましたが、**2019 年の水準(1.4%減)**を回復していません。回復の足かせとなるのは**輸出動向**で、2020 年に回復(15%増)するものの、パンデミック前(**2019 年比 2.6%減**)には達していません。一方、イタリア市場の売上は好調で、2020 年比+23.8%増、2019 年比 2.8%増と、パンデミック前の水準に戻りました。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

Press Info FederlegnoArredo e Federlegno Arredo Eventi  
*Alessia Quiriconi*  
[alessia.quiriconi@federlegnoarredo.it](mailto:alessia.quiriconi@federlegnoarredo.it)  
cell. 3474831339

*Chiara Sirianni*  
[chiara.sirianni@federlegnoarredo.it](mailto:chiara.sirianni@federlegnoarredo.it)  
cell. 3385305071